
5分間 勇者物語 ~主人公最強設定の何が悪い~

HAO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

5分間 勇者物語 ～主人公最強設定の何が悪い～

【Nコード】

N1504W

【作者名】

HAO

【あらすじ】

勇者が最強で何が悪い！！だって最後は魔王を倒せるんですよ？
だったら最初から最強だっていいじゃん！！
みんなが思ってるほど勇者って甘くないんだよ。
みんなが思ってるほど魔王って悪くないんだよ。

注：駄作です

皆さんは勇者という職業を知っているだろうか

勇者とは冒険者の中でも一部の人間のみが、なれる。昔こそ魔王討伐と言ったところのRPGのような職業だったが一度倒せばすぐに復活してくれるほど魔王も不死身では無いため、一度魔王討伐をしてしまえば人間の時間で100000年ほどは復活しないそうだし……

そして俺はその魔王を討伐してしまった勇者の一人だったのだが、あいにく俺が倒した魔王はどこかのお姫様を連れ去っていたり、不死の秘宝を持っていたりしなかったのだ。さらに実は魔王が死んだはずの親父だったなんて言う展開でもなかった。魔王の牙を持って帰りDNA検査までしての俺との血縁関係は0.000001%という残念すぎる結果だった……

もちろん魔王を倒したことを国王に報告したら、感謝状と金一封は貰えたものの、その後は魔物もいなくなり、冒険者と言う職業自体が以降10万年ほど廃業した。そして俺も廃業した。

知名度だけで生活できるなら、したかったが世の中そこまで甘くない。そこで俺は自分の武勇伝を本にすることを思いついた……

俺はアレックス。勇者村の勇者学校を過去最高レベルの成績を残し、わずか13歳で卒業して冒険者として村を出た。その後、王宮で開催されていた勇者にしか抜けないと言う有名なアレックスソードを抜いてみる大会と言うよく分からない大会に出て、見事にその剣を抜いた俺は魔王とその他もろもろの化け物を倒してくると言う役目を王から直々に与えられて晴れて魔王討伐に向かったわけである。

その間、他の勇者は冒険者と一緒に下級悪魔を永遠に掃除すると言
う、めんどくさい仕事をやるそうだ。

「っに、しても何もね〜な」

俺は今、無駄に広くて雑草しか生えてない草原に一人でいた……

「ヴォーーン!!!」

もの凄い咆哮と共に俺の目の前に、体の周を稲妻に覆われたドラゴ
ンが現れた。

「ニン……ゲン……クロス」

ドラゴンはそう言っていると俺に向かって巨大な稲妻の塊を放ってきた

「え〜!!!」

と言いながら俺は腰にぶら下げていたアレックスソードを一瞬で抜
いて、向かって来た稲妻の塊を切り裂いた。そしてドラゴンに向か
って必殺技の名前を叫んだ

「ハイパーソーパアレックススペシャルビッグハリケーン……」

必殺技を叫び終わった頃にはドラゴンは死んでいた。王様への証
拠としてドラゴンの牙を折って、次の化け物を倒しに言った。

と、まあこれまで色々あった俺は遂に魔王がいる、いかにも怪し
い城の中で迷子になりながら『5王』と呼ばれる時期魔王候補でそ
れぞれが、地・水・火・雷・闇の力を操る5体の魔王もどきを次々
にアレックスソードで薙ぎ払って行った……

そして、魔王がいそうな部屋の前で俺は律義にノックを試してみた。
すると、

「すみません。今入ってます……」

どーやらここはラストバトルに全くそぐわないトイレらしかった……

「あ、あの〜 魔王さんですか？」

「はい。 現魔王のサツタンです……」

「え？ サタンさん？ それとも、さっちゃん？」

「い、いえ……サツタンです……あ、あなたは？」

「勇者のアレックスです……一応あなたを倒しに来たんですが……」

「では、少々お待ち下さい……恥ずかしながら今、下痢なんです……」

「そ、そうですか……」

「な・ん・な・ん・だ！！！！と叫びそうになる自分を必死で抑えた。きつとサツタンさんも同じことを思っているだろう……すると、中からサツタンさんが……」

「す、すみませんがトイレットペーパーを取ってくれませんか？」

「あなたも、あれが付いてる魔王は倒しても嬉しくないでしょう？……」

「た、確かに……」

俺はそう言つと、サツタンさんが入ってるトイレの上からトイレットペーパーを投げ入れてやった

「あ、ありがとうございます……」

その後はトイレットペーパーを引く時のカラカラという音が響いた……

しばらくして突然、

「ぐるぐるうう〜」

まずい。腹が……俺は急いでサツタンさんの横のトイレに入った。

ここに来る前の宿屋で調子に乗って食べたカキがあたったのだろう……

しばらくして、隣のトイレから水の流れる音とドアを開ける音がした……

「あ、あれ？ アレックスさんどこですか？」

「こ、ここです……お、俺も下痢に……」
そこから俺の勝負だった。この時のことを思い出すたびに魔王よりも強敵だったと思い返す……

「お、お待ちしますから、あわてない方がいいですよアレックスさん」

「あ、ありがとうございます。でも一応俺はサツタンを倒しに来たんですよ？」

「え、ええ。でも、あなたはアレックスソードを持っているわけですし、私そこまで強くないのでアレックスさんが勝ちますよ……」

サツタンさんは本当に魔王なのだろうか？ いや、ここまでの全てが演技なのかもしれない……。だが今はそんなことよりも、魔王よりも強い強敵に集中しなくれば……！！！！

それから1時間後……
「いや〜！！ スッキリしました〜！！ こんなに待たせて、すみませんサツタンさん」

俺は魔王よりも強いあれに勝った。『あれ』についてはここでは、とても言えないので察してくれ。

「さて、アレックスさん」

「はい。サツタンさん」

お互いに準備ができていることを確認して戦闘モードに入った

「ハイパースーパーアレックススペシャルビッグハリケーン……」

必殺技を叫び終わった頃には魔王は死んでいた。王様への証拠として魔王の牙とトイットペーパーを持って帰った……

どうだったろうか？ これが、俺の武勇伝なわけだが、旅のお供にツッコミ役を連れていけば、少しは面白い旅になっかと思うんだ

が
.
.
.
.
.
.
.
.
.

(後書き)

こんな駄作を読んで頂きありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1504w/>

5分間 勇者物語 ~主人公最強設定の何が悪い~

2011年10月9日14時19分発行